

日本電熱（長野県安曇

野市、松田博幸社長は、「熱」制御を核に産業用電熱の開発製造を手がける。創業当初、米GEからの技術提供でシーズヒーターを開発、国産化に成功した。現在は半導体製造装置向けヒーターが主力。一方、脱炭素・カーボンニュートラル（温室効果ガス排出量実質ゼロ）で注目されているのが、蒸気発生装置の小型電気式簡易貫流ボイラだ。

日本電熱が開発する電気式ボイラ「エコフット」と「BOILER」は、現場の排気ガス発生ゼロ、機器からの二酸化炭素（CO₂）排出量ゼロを実現する。小型で使用箇所付近への設置や稼働状況に応じた機器運用ができるため、蒸気ロスが少ない。オン・オフのボタン一つで操作が

日本電熱

モノづくり現場

生産革新・脱炭素社会への挑戦

（第二部）

⑦

分散配置でエネルギー消費半減

容易、起動も早い。安全性が高く純水も使える。各工場・プロセスに分散配置することでエネルギー消費量を半分にすることも可能だ。

95%以上。スリム形状でエコフットを活用し、年間約200万円の経費削減につながった事例もある。またエコフットより

小型のBOILER、V企業は「最近燃焼効率をめぐって、2030年頃をめどに増えるだろう」と先を見据える。

製品や技術の進歩も追い風となり燃焼系からの切り替えは「2030年頃をめどに増えるだろう」と先を見据える。

小型電気式ボイラ



電気式ボイラ「エコフット」

小型の電気式ボイラは「最近燃焼効率をめぐって、2030年頃をめどに増えるだろう」と先を見据える。

製品や技術の進歩も追い風となり燃焼系からの切り替えは「2030年頃をめどに増えるだろう」と先を見据える。

【事業所概要】▽長野県安曇野市三郷温3788、02633・87・82822▽主要生産品目＝産業機器、家電機器▽年間CO₂排出量＝未算出

（長野支局長・小山正明）
（水・金曜日に掲載）